

J-28

文献調査による中国人の水に対する価値観に関する研究
蘇州の水郷古鎮にて

Sense of values for the Chinese water by the documents investigation
Old town in Suzhou Suigo

○伊藤綾香¹, 近藤健雄², 山本和清², 邱顕宇³

*Ayaka Ito¹, Takeo Kondou², Kazukiyo Yamamoto², Kenu Yuu³

This study and other documents consider the purpose of the study to be given in the hardware side (not different that I am soft). Suigo where is unchangeable for the interval during these people period having a long it who I live there, and continued coexisting having the history of 2,500 years in Suigo Suzhou. We analyze the unique prospects and documents from documents price for water Suigo people living there. The findings will help rises and I am old and it is considered the direction of the future development of the city and, in the town, am laid water coming Suigo in the future now.

1. 研究背景

水郷古鎮とは、水郷は水のほとりにある村を意味し、鎮は町をさす言葉であり、水のほとりにある古い街並みの残る風情ある町という意味である。

特に中国の江南地区にはこのような水郷古鎮と呼ばれる水路から形成される町が今も数多く残されている。しかし近年、歴史的に古い街として観光地のひとつとなり、国内のみならず海外からも観光客が多く集まる場所となった。中には観光化されてしまった古鎮もある。それでも趣のあるアーチ状の石橋、細い水路を通る船、石畳の道、そしてその中で普通に暮らしている人々など、昔からの生活様式を受け継いでいるものも多く残されている。



Figure11. Suzhou suigo

2. 研究目的

水郷古鎮において都市そのものを形成している水路（水）との関係性は切り離せないものである。既往研究では主に水路の形成や建築物の配置パターンから今後の保存的開発の開発方式を求める研究や水辺空間の保存、修景、設計などに寄与することを目的とした研究

が多く見受けられる。

そこで本研究では既往研究とは異なり歴史的、経済的、地政学的といった視点からの調査により、中国人の水に対する価値観について研究また、水郷に暮らす人々の水に対する価値観を文献や論文から独自の視点で分析していくことにより、今後誕生してくる水生都市や今ある水郷古鎮の今後の発展の方向性について一示唆を得る事を目的とする。

3. 研究方法

3-1 調査対象地

中国に数多く存在する水郷の中でも、特に水生が豊かで歴史の古い、中国を代表する水郷の一つである蘇州を本研究の対象地に選定した。



Figure12. Study areas

1:日本理工・学部・海建 2:日本理工・教員・海建 3:日本理工・院・海建

3-2 調査概要

本研究では、水郷に暮らす人々の水に対する価値観を3つの視点から分析する。

①歴史的視点②経済的視点③地政学的視点

水郷という古い町をこの3点から見て分析することにより、各々の時代でそれぞれ住民がどのように水路と関わりあい、どのような認識のされ方をしてきたのかを文献により調査し、その結果を時代ごとに比較することで、各々時代の水路の役割、認識のされ方が見えてくるのではないかと考える。

4. 結果及び考察

4-1 歴史的視点

蘇州には2500年の歴史があり、この長きにわたる歴史の中、片時も離れることなく水と共に歩んで来た。しかし、水は多くの恵みを与えてきてくれたと同時に時として脅威でもあった。それは町全体に張り巡らされている水路である。蘇州は周辺を運河や海に囲まれているため、もともと水路は水害対策の為に作られた。

中国の長きにわたる争いの歴史から考えると、水路は様々な方法で活用されてきた、それゆえ運河の歴史が蘇州の歴史とも言えるだろう。長気にわたる中国の争いの歴史、それは蘇州とて例外ではなかった。水生都市蘇州においては無数に張り巡らされている水路により奥地に隠れ里を作ったり、水路を使った戦略など、物流の手段だけとしてでなく水路が城壁の役割なども果たしてきた。

蘇州をこのような歴史的観点から分析してみると、水路は、そこに住む住民達の為ではなく、国防や町の防衛のために使用されていた事が分かった。これによって、水郷における人々の水路に対する意識や関心は低いものだったと考える。

4-2 経済的視点

時代と共に移り変わる産業や物流、多くは社会構造の変化により取り残されていく中、蘇州は長い歴史を生き残ってきた。その理由は蘇州を取り巻く豊富な水資源である。この水資源があったからこそ変わりゆく産業形態に対応することができ今尚、絹、真珠など多くの産業が行われている。

経済的視点で水に対する価値観を分析し、蘇州を見ると、水は無くてはならない存在だと考えられる。現在でも未だに水路の水を使い洗い物をしている人々も存在している。また、観光者用の船も数多く運行しており、これらの水路の使用は主に商業や産業を目的として利

用されている。よって、経済的視点から見ると、水路は昔から住民達にとって深い関わりを持ち、水路との関わりが生活の一部だったと考えられる。

4-3 地政学的視点

江南地区に位置する蘇州は長江の下流域に展開する水性豊かな一帯で太湖という巨大な湖を中心としていくつもの水路が走っていることから古来より、「魚米の地」と言われてきた。

地政学的に見ると蘇州は中国の中でもかなり恵まれた土地だと言える。それは水資源が豊富なことにある。水は土地に潤いを与え多くの生物を生み、住民達にとって暮らしやすい土地を与える。その結果この土地は、人的交流が活発になりそれぞれの文化にも大きな影響を与えた。

5. まとめ

今回までの調査で明らかになったのは、歴史、経済、地政の3視点からの中国人の水路に対する認識である。今後この結果を使い中国人の水に対する価値観について研究を深めていこうと考える。

今後の展望として、中国の他に日本にも佐原や潮来といった水郷が存在している。本研究同様調査し2つを比較することによって新たな価値観が算出できるだろう。



Figure13. Suzhou suigo

参考文献

- ・蘇州 水生都市の過去と現在 伊原 弘 1993年8月20日
 - ・日本建築学会大会学術講演梗概集 1996年9月
 - ・日本建築学会九州支部研究報告 第39号 2000年3月
- http://members.jcom.home.ne.jp/kazuarch/gallery/report/sub06_02_02.htm
<http://blog.livedoor.jp/umf1000/archives/65123388.html>